

# 正確なカットと最適木取りに対応

## シーアイウッド

### デイトム製 オプティカットを導入

伊藤忠建材全額出資のシーアイウッド（千葉県袖ヶ浦市、北原和人社長）は、袖ヶ浦事業所のプレカット事業部（2×4プレカット工場）に昨年末、ヴァイニツヒグループのデイトム製自動オプティカットソーS90（ソフトはネットイーグル）を導入し、今年から本格稼働している。

同機は長さカットの調節でき、需要拡大に対応するため、最適木取りシステムによる高歩留まりを実現。さらに、手動に比べ加工処理能力や生産性は3〜4倍向上。高い安全性も発揮している。

木口面のカット精度は正確。デイトムシヨランバーの投入材に欠点があれば、欠点部分に目印をつけるとその部分を正確に削除して、登録のカットリストから適切な長さを選びカットする。

歩留まり重視か生産能力優先かを自由に設定できる。投入速度は

調節でき、

処理能力の

速さが優れ

ている。長

さカットの

受注割合は

年々増え

て、現状は

デイトムシ

ヨランバ

ーで60〜70

%。3年前

はまだ実寸

カット比率

は30%程度、アッセン

ブルの定尺割合が70〜

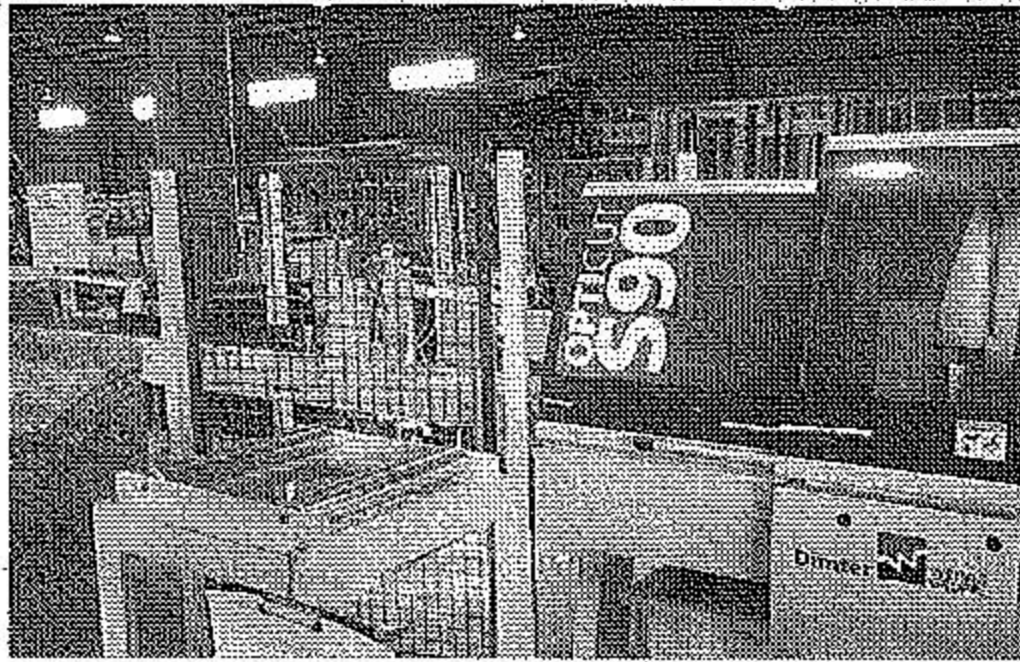
80%あったという。

CADデータに歩留

まり優先の順位を付け

ておけば、そのとおり

に木取りして部材カット



シーアイウッドに設備されたデイトム製のオプティカットソーS90

トする機能もある。構造計算も、専用ソフト

による構造設計をCAD

Dデータ化してCAM

へ。このソフトの連動

が飛躍的に効率と精度

を向上させる。

を向上させる。

中島啓和専務は「3材1000本のメーカー設定値をすでに超えて、1日当たり4000材（8時間）を実現。全自動オプティカットと従来の手動クロスカットでは作業効率が3〜4倍違う。建築現場でカット残材を出さないようになり、工場です寸サイズの仕上

げをハウスメーカーやビルダーが望んでいるため機械化した」と説明。

シーアイウッドでは、パネル加工ラインを含む2×4プレカット工場（JAS認定工場）が、月によってばらつきがあるものの100〜150棟（プレカット・アッセンブル、パネル加工）。約2000立方尺（月間）のデイトムシヨランバーを使用している。

なお、2×4プレカット工場で使用しなくなったクロスカットソーは構造用集成材（集

成管柱）工場に設置する予定。管柱でも実寸カットへの対応を検討している。